

いつもの、博多駅前レンタカー店を10:30に、矢ヶ部氏、山下氏、金尾氏、岑の4名で曇り空の中出発しました。途中の長崎自動車道に入ると空模様も怪しくなりましたが、雲仙市愛野町に着く頃は、雨に遭遇することなく昼食場所に着くことができました。(波木事務局長は、到着が夕方になります)

今回の昼食場所は、事前に調査しておいた、雲仙市愛野町の(株)雲仙きのこ本舗のレストラン「雲か山か」愛野店での昼食でした。



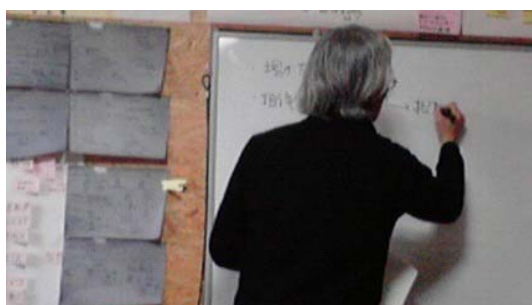
ジャガイモ畑の真ん中に佇む「雲か山か」愛野店は、雲仙きのこ本舗に隣接された生産しているきのこ類をベースにした、美味しくヘルシーな食事を、単品メニューやセットメニューで味わうことができるレストランです。



13時過ぎに、いつもの竹添ハウスに到着しました。

先月に引き続き、安元氏による「来期以降の事業計画に関する検討会」で、竹添ハウスの「場づくり」とはということからスタートしました。

次年度以降、竹添ハウスをどのような場づくりとするのか、どのような組織体制づくりについて演習などもありました。



【安元氏の説明に聞き入る皆さん】

先月と同様、事前に打ち合わせを行っておられたのか、安元氏は話しの節目ごとに松本由利さんに対して、いちいち了解を取っておられことについて違和感を感じました。率直な意見として、今回も特筆すべきことはありません。

そもそも、コミュニティ・ビジネス（CB）に定義はなく、経済産業省による、「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決し、またコミュニティの再生を通じて、その活動の利益を地域に還元する」という事業のことを基本と考えられています。（最近では、CB 業界も荒れ放題になっていると言われていています）

我々には、個人的にも仕事上においても、いろんな業種・業界の方々と接する機会と交流があり、また、NPO や各種団体、行政等が主催する数々のセミナーに参加し、個人の起業支援や、新会社設立等の経験があります。

このようなことから、今後の活動の展開をする上でのファシリテーションやワークショップであり、何も生かせなかつたら単なる机上の空論です。

当初から雲仙市内の7町を見て回りましたが、天候の問題、主催者や参加者の都合等もあって、地元の皆様と接する機会が少なく、我々にとって果たして満足できるような結果が得られたのでしょうか。

我々の反省点としては、もっと地域に入り込んで、「地域の皆様の生の声を聞き」、「現状を知り」、ボランティアなり、ビジネスなりを通して、それぞれの専門分野で貢献したいという活動が、何故できなかったのかということです。

二日目の午後から、『NPO 法人 奥雲仙の自然を守る会』代表の、中田妙子（覚妙）様と、事務局の木田智様がお見えになり、昼食を食べながら NPO としての活動の写真と、設立の経緯や商品開発等の話を聴かせて頂きました。



【写真左が木田氏、右が中田代表（女性）】

◆当 NPO 法人の概要

- ・ 団体名称：特定非営利活動法人 奥雲仙の自然を守る会
- ・ 所轄官庁：長崎県
- ・ 法人認証年月日：平成5年6月27日
- ・ 主たる事務所：長崎県雲仙市国見町土黒庚2323番地
- ・ 従たる事務所：長崎県南島原市深江町丁4831番地
- ・ 代表者名：中田妙子
- ・ 目的：この法人は、奥雲仙の自然保護と森林の中での自然体験や自然学習が行えるフィールドを提供し、農山村体験学習、ボランティアなどに関する事業を行い、青少年の健全な育成と高齢者の生き甲斐を追求し、社会の発展に寄与することを目的とする。
- ・ 活動分野：環境の保全を図る活動、子どもの健全育成を図る活動

◆体験メニュー（屋外）

- ・ 農山村体験：所要時間2時間程度、炭焼き、竹とんぼ作り、森遊び等
料金／大人子供とも一人5,000円 昼食おやつ付
要予約制 定員20名程度
 - ・ 農家ふれあい体験：日帰り20名程、所要時間6時間程度
料金／大人子供とも一人5,000円 昼食おやつ付
要予約制 定員20名程度
- ※ファームステイ（宿泊）受け入れも可能（定員10名）

◆グリーンツーリズム 体験民宿 「奥雲仙 寿妙院」

奥雲仙寿妙院は、雲仙の北側にそびえる、仙人伝説の山・霊峰九千部岳（1062m）の裾野に広がる標高600mの高原地帯の一角にあり、大自然のエネルギーの中で、遊歩道散策や森林浴など身体をリフレッシュしながら、緑豊かな環境の場でいろんなふれあい体験を楽しめます。

※連絡先：TEL0957-78-3521

FAX0957-72-5433

E-mail okuunzen@mx71.tiki.ne.jp



【奥雲仙寿妙院】



【奥雲仙自然を守る会が地元産柚子で作った、手作りの特製ジャム(左)と赤柚子胡椒入りのぽん酢(右)】

最後に、「奥雲仙田代原高原」について、少し紹介します。

田代原は、同じ雲仙国立公園内にありながら、雲仙温泉に隠れて知る人ぞ知る的な場所であった。しかし、グリーンツーリズム、エコツーリズムの台頭により、これまでの雲仙のイメージを変える、体験型の場として脚光を浴びつつあります。

田代原高原は、雲仙岳北部に広がる九千部岳、吾妻岳、烏甲山に囲まれた千々石断層上の盆地で、春はミヤマキリシマ、初夏はヤマボウシが群生し、秋は紅葉が楽しめます。高原内には、田代原キャンプ場や田代原トレイルセンターを併設し、自然の宝庫としてしられ、自然観察に適した素晴らしい自然環境が整備されています。



【ミヤマキリシマ】



【ヤマボウシ】

◆田代原キャンプ場

充実したキャンプ用品がレンタルできますので、自然に包まれる感覚と本格的アウトドアが気軽に楽しめます。

昼間はトレイルコース散策を楽しみ、夜は満点の星空を見上げてみましょう。

- ・ 開設期間：5月1日～10月31日
- ・ 休場日：期間中は無休（ただし、悪天候の場合など、休場することもあります）
- ・ 参考料金：入場料 一時利用 100円
 宿泊利用 大人 300円・小人 100円
 テントサイト使用料 一時利用 1張 500円
 宿泊利用 1張 1000円
- ・ 設備：テントサイト 15区画・管理棟・炊事棟・トイレ・温水シャワー・野外炉
- ・ レンタル用品：ランタン・テント・BBQセット・寝具一式・食器セット

○開設期間中の問い合わせ：キャンプ場管理棟（電話 0957-78-2331）

※場内清掃などにより、管理人が不在の場合があります。電話がつかない場合は、正午から午後1時の時間帯におかけ直してください。

以上

（文責：峯 耕介）